

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 4月25日現在

機関番号：16102

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242005

研究課題名（和文） 先史岩面画博物館の構想のための基礎的調査研究

研究課題名（英文） Fundamental survey researches for the conception of prehistoric rock art museums

研究代表者 小川 勝（OGAWA MASARU）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：60214029

研究成果の概要（和文）：

わが国における先史岩面画博物館を新たに構想するために、世界各地に設置されている博物館を実地に見学し、新たなモデルを構築すると共に、博物館の周辺に分布する先史岩面画遺跡群を現地調査することで、先史岩面画全般に対する知見を深めることができた。

研究成果の概要（英文）：

In order to have new conception for a prehistoric rock art museum in Japan, we have investigated many museums of rock art all over the world, and then we have established new model of museum. In the same time, we have done our researches at prehistoric rock art sites near the museums, thus we have been able to deepen our thoughts and knowledge for rock art in general.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2009年度	7,300,000	2,190,000	9,490,000
2010年度	9,000,000	2,700,000	11,700,000
2011年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
総計	25,500,000	7,650,000	33,150,000

研究分野：美術史

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：美術館、博物館学

1. 研究開始当初の背景

共同研究のきっかけとなった、北海道余市町のフゴッペ洞窟では、2004年に新しい覆い屋が建設され、それに伴い、建物の一部分に展示コーナーが設えられ、見学者の理解を促進する役割を果たしているが、世界各地で設置されている、先史岩面画博物館と比較すると、まだまだ十分であるとはいえない。わが国における新たな先史岩面画博物館を構想しようとするに至ったゆえんだが、その

ためにも、世界各地の実例を実地に視察して、その長所、短所などを摘出し、そこで得られた知見をもとに、世界にも類を見ない新たな博物館を作り上げる必要があったのである。

2. 研究の目的

(1) 先史岩面画とは、自然のままの亀裂や起伏に富んだ岩面に、色彩や刻線を施して美術作品としたものであり、世界各地において

発見されている。代表的な作品群に、後期旧石器時代(約32,000年前～約10,000年前に)フランスとスペインで制作されたラスコーなどの洞窟壁画が挙げられるが、それ以外にも、現在にいたるまで制作されつづけている芸術伝統である。洞窟壁画は20世紀初頭から研究対象になってきているが、それ以外にも近年では世界各地に研究者が輩出し、多くの遺跡の情報が国際的に集積されてきている。わが国でも、北海道の積丹半島地方の余市町にあるフゴッペ洞窟と隣接する小樽市の手宮洞窟において、約1,900年前に制作されたと考えられている岩面刻画が発見されており、応募者が代表をつとめている研究グループ「日本先史岩面画研究会 (Japanese Prehistoric Rock Art Research Association・略称JAPRA)」が総合的な調査研究を行ってきている。既に報告書『フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究』(中央公論美術出版・平成15年)も刊行しているが、まだまだ多くの課題が残されていると応募者は認識している。最も重要な論点は、わが国の岩面刻画が地域的にも制作年代的にも孤立しているということであり、JAPRAは、報告書刊行後も、大韓民国など近隣諸国の遺跡を調査して、フゴッペ洞窟岩面刻画などを適切に位置づけようとしてきているところである。しかし、より広範に、また精密に調査研究するためには、わが国の新たな事例を積み上げ、さらに北東アジア地域の多くの遺跡を改めて視野に入れる必要があるだろう。応募者はユネスコ傘下の世界文化遺産関係諮問機関であるICOMOS(国際記念物遺跡会議)の岩面画部門のメンバーであり、同時に日本イコモス国内委員会の国際岩面画部門への代表も勤めている。上記JAPRAは日本イコモス国内委員会傘下の研究部門という性格も有しており、活動的な委員を多く擁している。本研究は、JAPRAの継続的活動の一環とし

ても位置づけられるだろう。

ところで、フゴッペ洞窟と手宮洞窟には、近年、新しい保護施設が建設されたが、そこに展示されている先史岩面画に関する資料は、欧米の類似施設と比べても、まだまだ不十分であり、学術的な観点からもさらに充実してゆく必要性を認識している。JAPRAの研究成果を公開展示するためには新たな博物館施設も必要であると応募者は認識しており、その構想をより具体的なものにするためにも、調査データを蓄積してゆくこともこの研究の目的である。

(2) わが国をはじめとする北東アジア地域には、多くの先史岩面画遺跡が散在している。それらは必ずしも有機的に関連づけて位置づけられているわけではなく、本研究においては、改めて現地調査を行って、まだまだ見落とされている、地域の先史岩面画遺跡に共通する特質を明らかにすることになるだろう。各国で個別に想定されている制作年代を統一した視点から決定してゆくことになるだろうし、また、モチーフの分析を通じて、先史時代に北東アジア地域で重視された内容的な側面にも、できるだけ肉薄できればと考えている。また、JAPRAは、これまでもフランスのラスコー洞窟やスペインのアルタミラ洞窟に付随する博物館施設を視察して、フゴッペ洞窟などの展示ソフトを構築してきているが、さらに、ヨーロッパにおいて最大規模を誇る、フランスのニオー洞窟付近に設置されている「先史美術公園 (Le Parc d'Art Préhistorique)」を実地に調査して、わが国における先史岩面画博物館の設立構想に資したいと考えている。そして、北東アジアにおける先史岩面画の研究センターとして機能するような内容を充実させてゆきたい、と考えている。

(3) 研究代表者は先史岩面画を長年にわたっ

て調査してきているが、連携研究者には、JAPRA の中心メンバーである考古学研究者 2 名を配置しており、それ以外にも、研究協力者として JAPRA の会員である博物館関係者などを想定している。先史岩面画研究はその調査対象の特質から、本来的に学際的領域であるといえ、ひとつの造形現象を多角的な観点から考察することで、それぞれの研究分野がこれまで個別に蓄積してきた学術資料を統合することになるだろう。それにより、まだまだ解明されていない、紀元前の数百年間にわたる人々の移動の実態も明らかになり、北東アジア地域における国家形成直前の時代観が総合的な観点から確固たるものにもなるだろう。それらは、新たな知見として、先史岩面画博物館の構想にも反映されることになるだろう。また、その構想を実現化してゆく中で、さらに多くの分野から多様な研究者の参画が期待でき、より総合的な先史文化研究が構築できることだろう。

JAPRA は、これまで研究会として調査を積み重ねることにより、先史岩面画というまだまだ研究方法が国際的に確立しているとはいえない対象に対して、既に独自の研究方法を提起してきている。それらは、前述の報告書『フゴッペ洞窟・岩面刻画の総合的研究』において明らかになっているが、国際的にもモデルになる方法意識であると、応募者は自負している。何よりも、多くの分野から研究者の参画を得て、総合的な知見を蓄積している点が、北東アジア各国の調査研究にも資するところがあるだろうと自ら評価しているからだが、今後、各遺跡における国際共同調査を通じて、現状では個々に工夫されている方法を標準化し、また、各国の独自の方法意識を吸収して、より普遍的な先史岩面画研究の方法を磨き上げてゆきたい。それにより、より国際的な学術交流が展開してゆくことだろ

う。また、先史岩面画博物館の構想が、北東アジアの研究センターの育成にもつながり、それは地域の枠を超えて、世界各地からの研究者の積極的な参加にもつながってゆくだろう。

3. 研究の方法

初年度には「日本先史岩面画研究会 (JAPRA)」による継続的な調査活動の一環として、鹿児島県徳之島における共同調査を計画している。徳之島には先史岩面画遺跡が複数あり、これまで断片的に報告されているが、その全貌は未だ明らかではない。多くの分野の研究者とともに、JAPRA が培ってきた研究方法意識により、総合的な観点から現地調査を行う。

平成21年度には、中華人民共和国北部の先史岩面画遺跡の調査研究を予定している。平成22年度には、先史岩面画博物館構想に資するためにフランス共和国のピレネー地方に位置するニオー洞窟壁画と、その近くの広大な博物館施設である「先史公園」を調査する予定である。最終年度である平成23年度には、成果報告書の作成を通じて、先史岩面画博物館の構想を提起してゆくことになるだろう。

4. 研究成果

初年度の平成20年度には、計画通り鹿児島県徳之島の先史岩面画遺跡群を現地調査した。それに先立ち、台湾南部の萬山 (ワンシャン) 遺跡に関する特別展が台北の十三行博物館であるとの情報を得て、急遽、現地に見学した。萬山遺跡そのものは山中深くにあり、短期間では現地調査はかなわなかった。また、研究代表者は北京に赴き、翌年の中国における現地調査の打ち合わせを、中国民族大学岩面画研究所で行った。

21年度には、中国における現地調査を主たる活動とした。北部の寧夏回族自治区と内モンゴル自治区の遺跡群を集中的に現地調査した。また、近年新設された「寧夏博物館」などの博物館施設をいくつか視察し、その問題点を抽出することができた。すなわち、先史岩面画博物館は、付近に散在するゲートウェイとしてのフィールド・ミュージアムであるべきだが、実際には、遺跡からはぎ取ってきた作品の実物や、作品損傷の恐れのある拓本などの展示や販売が横行しており、それらを反面教師にすることができるのではないかと思われた。

22年度は、ヨーロッパでの先史岩面画博物館とそれに関わる博物館を多く現地調査することができた。まず、スペイン東海岸に分布する「レバント美術」の遺跡群と5ヶ所の博物館を、続いてフランス・ピレネー地域の洞窟壁画遺跡群と4ヶ所の博物館を実地に調査した。ヨーロッパは先史岩面画研究の揺籃の地であり、かつ現在まで中心の1つとして機能しており、その博物館も地域に密着しつつ、それぞれの表情を持っており、大いに参考にすることができた。

また、共同研究の出発点になっている、北海道余市町のフゴッペ洞窟が発見されて60周年にあたっていたので、それを記念して国際シンポジウムを主催した。フランス、ブラジル、中国から世界的に活躍する研究者を招聘し、余市町の他、京都、東京でも国際研究集会を開催し、先史岩面画研究への一般的な理解を促進するという、本研究のもう一つの目的を果たすこととなった。

最終年度は、計画にはなかったが、研究の進行の中で必要と見なされた、インド中部のビーマベトカ遺跡群と、アメリカが周国ハワイ州のハワイ島の先史岩面画遺跡群を、補足として現地調査した。

以上、4年間を通じて、アジアを中心としつつ、世界各地で現地調査を行い、様々な博物館のモデルを得て、今後の知見に大いに寄与することができたと自負している。全174ページにのぼる報告書も印刷したが、学会誌への寄稿など、学術的な成果発表は今後に予定しており、今のところめばしい成果を上げていないことは素直に認めなければならない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 小川勝 構造主義的解釈の諸問題:洞窟壁画の解釈をめぐって 査読無し 鳴門教育大学研究紀要第27巻 2012年 319-329
- ② 小川勝 レバント美術再訪 査読無し スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会会誌 第21号 2010年 6-9
- ③ 小川勝 韓国岩面刻画発見 40 周年記念国際研究集会に参加して 査読無し JAPAN ICOMOS INFORMATION 8 期・4号 2010年 14-15
- ④ 小川勝 フォッギーニの制作年代:ギルフ・キビール地域(エジプト)の先史岩面画 査読有り 民族藝術 第26巻 2010年 35-43
- ⑤ 小川勝 呪術説の諸問題:洞窟壁画の解釈をめぐって 査読無し 鳴門教育大学研究紀要・芸術編第23巻 2008年 325-335
<http://www.naruto-u.ac.jp/repository/detail/13820110801112519>

[学会発表] (計 4 件)

- ① Masaru OGAWA Dating Petroglyphs from Fugoppe Cave, Japan 韓国岩面刻画発見 40 周年記念国際岩面画学会 2010年10月26日 ソウル、韓国国立中央博物館
- ② Masaru OGAWA Power of Seeing: high quality and diversity of Parietal Art in

Chauvet *Pleistocene Art of the World*
Congress 2010 IFRAO Congress,
2010年9月9日 Tarascon-sur-Ariège
and Foix, France

- ③ Jannu IGARASHI Chronologie de la
réalisation d'une fries de mammoths
dans la grotte de Rouffignac (Dordogne,
France)

Pleistocene Art of the World Congress
2010 IFRAO Congress, 2010年9月9日
Tarascon-sur-Ariège and Foix, France

- ④ 小川勝「構造主義的」解釈の諸問題：洞
窟壁画の解釈をめぐって 第107回日仏
美術学会例会 2008年7月25日 京都
市・京都大学

[その他]

- ① 小川勝 先史岩面画研究の現在 査読無
し 北海道新聞夕刊 2010年11月2日付

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小川 勝 (OGAWA MASARU)
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准
教授
研究者番号：60214029

(2) 研究分担者 なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

菊池 徹夫 (KIKUCHI TETSUO)
早稲田大学・文学学術院・名誉教授
研究者番号：00147943

右代 啓視 (USHIRO HIROSHI)
北海道開拓記念館・企画調整課・課長
研究者番号：30213416